

車持朝臣千年の作る歌一首 并せて短歌

九三一番

いさなとり 浜辺を清み うちなびき 生ふる玉
藻に 朝なぎに 千重波寄せ 夕なぎに 五百重
波寄す 辺つ波の いやしくしくに 月に異に
日に日に見とも 今のみみ 飽き足らめやも
白波の い咲き廻れる 住吉の浜

反歌一首

九三二番

白波の 千重に来寄する 住吉の 岸の黄土に
にほひて行かな